

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情5第13号	受理年月日	令和5年6月8日
件名	東京都中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の結果を都立高校入試に利用しないことを都教育委員会に求める意見書に関する陳情		

【陳情の趣旨】

日頃から目黒区の文教施策にご尽力いただき、ありがとうございます。

都教育委員会は、11月26日に都内全公立中学3年生に対して民間事業者による英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施し、その結果を都立高校入試の合否判定に利用する実施要項を2022年度に引き続き、策定しました。しかし、そもそも都教委には全公立中学生にESAT-Jを受けさせる権限はありません。都立高校の入試に使うことによって強制させるという「不当な支配」にあたります。

また都内公立中以外の都立高校受験者は毎年200人程度います。ESAT-J 不受験者の点は、英語の学力検査で同程度の得点の他者の結果で評価されるため、不受験者が学力検査上位の受験生の総合得点を逆転する可能性があります。評価の点数化も4点刻みのため、実際の得点を正確に反映しません。

結果は総合得点のみしかわからず、開示も自分の音声のみです。受験生は何を間違えたのかもわからず、英語力の向上に繋がりません。

また、昨年度は保護者に十分な説明がないまま、顔写真付きの個人情報のオンライン登録が行われました。区内では、保護者の同意もなく、子どもが勝手に登録している学校もありました。保護者が同意しなければ受験に不利になる可能性があるため、同意に任意性はなく、個人情報保護法に違反するという住民訴訟も準備されています。

目黒区立中学校の会場は昨年度、6割が区外で、遠いところは1時間かかりました。都教委は保護者の同行を禁止し、会場にたどり着けなかったり、遅刻したりする生徒が多数いました。欠席や遅刻、緊急用の電話は繋がりませんでした。機器の不具合に起因する録音不良で評価を修正する事態も起きました。前半組と後半組の教室が交互に並び、最大40人の定員だったため、回答や問題の漏洩が多くの会場で起きました。「待機時間に前半の教室から答えが聞こえたので、いい点取れそうですね、と試験監督が言っていた」「何を言っていないかわからず、隣の人の音声を真似して評価がCだった」「何も話さなかったのに、他人の音声が入っていたので評価がCだった」などの声が上がっています。今年も前半組と後半組に分かれて実施するため、同じことが起き得ます。片耳のイヤホンが外れたのに、イヤホンに触ったら失格になると脅され、直すこともできずにそのまま試験を受けた生徒もいました。試験の公平性や生徒の安全より、運営企業の利益が優先されている実態があります。誰よりも実態を知る生徒からの聞き取り、もしくは生徒の声を聞き取った教員からのアンケート調査を行い、ESAT-Jの結果を今年度

以降の都立高校入試に利用しないよう都教委に要請してください。

【陳情事項】

- 1 都教育委員会に対しE S A T－Jの結果を都立高校入試に利用しないよう、意見書を提出してください。
- 2 区教育委員会が、昨年度の実態を知る生徒からの聞き取り、もしくは生徒の声を聞き取った教員からのアンケート調査を行い、都教育委員会に現場の詳しい状況を伝えてください。